

発達特性等による困難のある 大学生の就職支援と啓発活動 事業報告書

2025年3月

N P O 法人札幌チャレンジド

目的

<中長期>

本事業の効果により、札幌圏の半数以上の大学において発達障害特性等によって就職できない学生への取組みが進む状態となる。大学において札幌チャレンジドと繋がることの有用性が認識される。

<最終目的>

発達障害特性等によって就職に大きな不安を抱えた大学生・若者が安心して相談、研修を受けることでそれぞれの能力を社会で発揮できる地域となる。

目標と結果

【数値目標と結果】

No	内容	目標	結果
1	連携する6大学での説明会開催数	30回	31回
2	オープン説明会の開催数	5回	6回
3	研修・相談参加学生数	30名	42名
4	研修・相談のべ参加学生数	のべ200名	407名
5	就職決定学生数	6名	8名

【定性目標】

本事業の中長期目標の達成に向けて、各大学の認識が変化し、取組みにつながる。

【結果】

各項目の考察に記載。

事業内容と結果考察

【1.学生向け説明会】

- ▶ 大学と連携した説明会：31回、参加者78人
- ▶ 上記参加学生の学年（質問に答えた学生の数）
 - ▶ 1年生：16人、2年生7人、3年生30人、4年生14人、院1年生3人、院2年生3人、他5人
- ▶ オープン説明会：6回、参加者8人
- ▶ 大学と連携した説明会は、毎回、少数ではあるが参加者がいて、それぞれの学生のタイミングが合致したときに参加している傾向が明らかである。課題感のある学生にとって興味のある説明会になっている。
- ▶ オープン説明会は、3つのNPO法人の協力によって広報したが、コミュニケーションに課題のある学生まで情報を届けることは、なかなか難しかった。
- ▶ 学生への広報としては、大学から学生向けの案内が効果的である。

（注）連携大学：北海道大学、札幌学院大学、北星学園大学、北海道科学大学、星槎道都大学、藤女子大学

事業内容と結果考察

【2.対面・LINE相談窓口の運営、各種研修、就職活動支援】

- ▶ 研修会および個別相談への昨年度の参加者数は28人、のべ119人であったが、今年度は、42人、のべ407人と大幅に増加した。学生への広報が着実に広がっていることと、実際に参加した学生の満足度が高いので、積極的な利用に繋がっている。
- ▶ LINE登録者も昨年度末62人が今年度末130人と倍増している。毎月コンスタントに登録者が増えている。
- ▶ 研修に参加したことにより自信を身に付け、就職活動へ前向きな気持ちで取り組む学生が増えており8名の学生の就職が決まった。
- ▶ 2024年度末時点の個別支援継続学生は、42人（1年生：1人、2年生1人、3年生7人、4年生18人、院1年生5人、院2年生4人、他6人）となっている。

事業内容と結果考察

【就職が決まった学生 8 人の概要】

<業種> I T : 4 人 医療・福祉 : 1 人 警備 : 1 人 運輸 : 1 人 小売 : 1 人

<職種> エンジニア : 3 人 一般職 : 3 人 介護職 : 1 人 保安検査員 : 1 人

<学科> 人間社会、人間科学、広報メディア観光、福祉臨床、心理、福祉臨床心理、
英文 (院卒 2 人 学部卒 5 人 高卒 1 人)

<性別> 男性 : 6 人 女性 : 2 人

<備考> 6 人は、利用期間 1 年以上

事業内容と結果考察

【3.事業広報フォーラム】

日時 : 令和6年10月12日(土) 13時30分～16時30分

会場 : TKP札幌カンファレンスセンター北3条 ホール6 A

参加者 : 50人

【概要】

主催者挨拶 : NPO法人札幌チャレンジド 理事長 加納尚明

本事業に向けて : 公益財団法人日本財団 公益事業部 シニアオフィサー 岡田友子

事業報告 : NPO法人札幌チャレンジド 理事長 加納尚明

講演 : 「困難を抱える学生への関わり方」

NPO法人札幌チャレンジド 理事・移行グループリーダー 大山珠美

事業内容と結果考察

【3.事業広報フォーラム】

パネルディスカッション

「コミュニケーションが苦手な学生のキャリア支援に求められること」

(パネリスト)

札幌市長 秋元 克広

北海道大学 学生相談総合センター センター長 安達 潤

札幌商工会議所 総務委員会委員長 池田食品株式会社 代表取締役 池田 光司

NPO法人札幌チャレンジド 理事・移行グループリーダー 大山 珠美

(ファシリテーター)

NPO法人札幌チャレンジド 理事長 加納 尚明

事業内容と結果考察

【3.事業広報フォーラム】

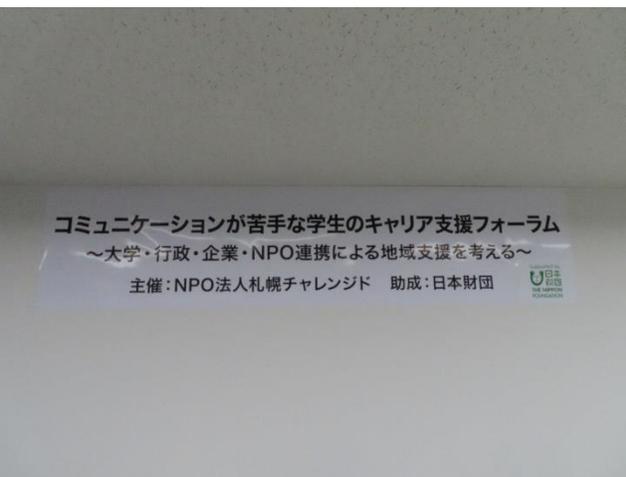
パネルディスカッションの概要

1. 大学における学生支援や課題について
2. 支援の現場から感じることについて
3. 大学と連携した取組について
4. 札幌市における雇用の課題について
5. 本取組の将来について

上記5つの視点からディスカッションを行い、参加者間の共通認識を得た。今回のフォーラムには、大学、行政（札幌市）、札幌市議会議員、福祉関係者、NPO関係者など幅広い関係者が参加したことで、本事業が、「**地域課題**」であることの共通認識を得ることができた。

事業内容と結果考察

【3.事業広報フォーラム】



事業内容と結果考察

【4. 学生関連団体連携活動】

1. NPO法人ezorock

- ▶ ezorockの活動に参加する学生の中でコミュニケーションに不安を抱えている学生を対象に意見交換会2回、事業説明会2回を開催した。参加者計22人。
- ▶ オープン説明会の学生向け広報への協力

2. NPO法人北海道エンブリッジ

- ▶ 代表が大学で担当している事業の中で本事業を案内。
- ▶ オープン説明会の学生向け広報への協力

3. NPO法人Kakotam

- ▶ オープン説明会の学生向け広報への協力

事業内容と結果考察

【5. アンケート調査〈大学向け〉】

依頼先 : 日本私立大学協会 北海道支部 就職指導実務担当者会議

実施時期 : 令和6年9月

回答方法 : 無記名インターネット回答

貴校では、主に発達障がいの傾向があると思われるコミュニケーションが苦手な学生（障がい者手帳の有無に関わらず）の就職支援について課題に感じていることはありますか？あれば自由にご記入ください。

学生本人または保護者にその認識がないため、支援の方法に苦慮している。

自身の発達特性を理解していないために、仕事内容のミスマッチが生じたり、一般就労以外の選択肢を知る機会がないままに就活を進め大変な思いをする。

自分の特性の理解ができていないので、本人自身が戸惑っている。

相談に来てくれればアドバイスできるが、グレーゾーンの学生は、相談に来る学生が少ないと感じています。

手帳を取得した方が良いと思う学生の場合、保護者の対応が難しいです。

困っていると思われるがこちらから声をかけるのが難しい。

学内に専門性のある職員がないので、適切な対応に苦慮しています。

事業内容と結果考察

【5. アンケート調査〈大学向け〉】

上記学生の就職支援以外で課題に感じていることはありますか？あれば自由にご記入ください。

朝、起きられない、忘れ物が多いなど生活支援が必要な学生もいます。

課題提出の期日が守れないなどスケジュール管理ができない。

友人を作ることができないのでいつも一人でのいるのでそのことが心配です。

上記学生に対して、どのようなサポートをされていますか？ご自由にご記入ください。

基本的に個別のサポートで対応。状況に応じ、ゼミ担任や就職担当教員、学内カウンセラーなどと情報を共有しながら進めている。また、本人の意向確認ができれば、外部の協力機関を紹介している。

個別面談（特性理解，心理検査，ジョブマッチング含む），就労に必要なスキルを高めるためのグループワーク，キャリア支援部門における志望動機の明確化・履歴書の添削・面接練習，就労に必要な情報提供，就労移行支援事業所・ハローワーク・障害者職業センターなどの外部機関との連携

一般の学生と同じ就職に向けてのプログラムで対応している。

外部の障がい者の就労支援機関と連携している。

非常勤だが心理カウンセラーを配置している。

事業内容と結果考察

【5.アンケート調査〈大学向け〉】

その他意見

グレーゾーンの学生は就職支援対応でわかったり、インターンシップ先からの報告でわかる。本人も就職活動を始めて困りごとが明確になってくる発達障がいのあるインターンシップを企業に依頼しても断られ実施できず、仕方なく学内インターンシップを実施、体験での気づきがあった。グレーゾーンの学生は就職支援課だけでなく他の部門と連携しているが「個人情報」ということで全てではない。大学だけでなくナカポツともつながり支援を実施しているが、就職実現は難しい。

グレーゾーンの学生対応に困っている。就職活動でも意欲が見られない、ハローワークの就職相談も利用しないなど、また本人の自覚がなければ親への説明もできない。就職相談もみどりの窓口的な支援をしたいが出来ていない、またグレーの学生が就職支援で失敗すると立ち上がれず、他の職種への変更とかが出来ない。学生相談室のカウンセラーからは個人情報との事で情報提供を受けられず。インターンシップに関して企業はもっと気軽に受け入れてほしい。

明らかに発達障がいの学生が就職して家族の面倒を見たい意志が強いが就職に結びつかない。本人は障がいがあるという自覚がない。4大・短大ともグレーの学生が福祉の就職を目指す結びついていない。グレーの学生にどう伝えたらよいか課題。また個人情報の扱いが難しい。

就職課で面談したときに障がいがありそうな場合「学生相談室」を紹介している。卒業できそうな学生にはTELでキャッチして面談を進め就職活動を進めるが、全体の1割の学生は就職できず卒業だけに。その中には障がいがありそうな学生も。キーはゼミの先生、障がいがありそうな学生を「学生相談室」につなげる事。インターンシップ希望の学生へは極力面談を実施し、事前に把握しなければ企業に迷惑をかける。

発達障がいのグレーゾーンの学生はいるが、相談に来ないので就職状況がどうなっているか把握できていない。それらしき学生はいるが、こちらから障がい者として就職支援を働きかけることはできない。本人が障がい者として自分を認識することが極めて難しい。

グレーゾーンの学生も在席しており、学生の状況によっては通院を勧めるが、親御さんの意見等もあり通院しないケースが多いようだ。学生の障害情報は学内で共有化されていない。殆どのグレーゾーンの人は申告が無いまま一般就労を目指すため就職に結びつかない。

事業内容と結果考察

【5.アンケート調査〈大学向け〉】

【考察（アンケート及び日常のヒアリングから）】

- ▶ コミュニケーションに課題があり就職活動が上手くいかない学生がどの大学にも一定数いる（約3%～7%程度感覚）。
- ▶ 当該学生は、「困り感」はみな感じている。
- ▶ 当該学生の自己理解ができておらず、学内の相談機関に繋がる学生が少ない。
- ▶ 本人には「障がい」との自覚が無い為に、当該学生への広報に課題がある。
- ▶ 大学内での専門スタッフが少なく、外部の社会資源との連携の必要性が認識されている。
- ▶ 学内での個人情報の扱い（情報共有）が難しい。

事業内容と結果考察

【5.アンケート調査〈学生向け〉】

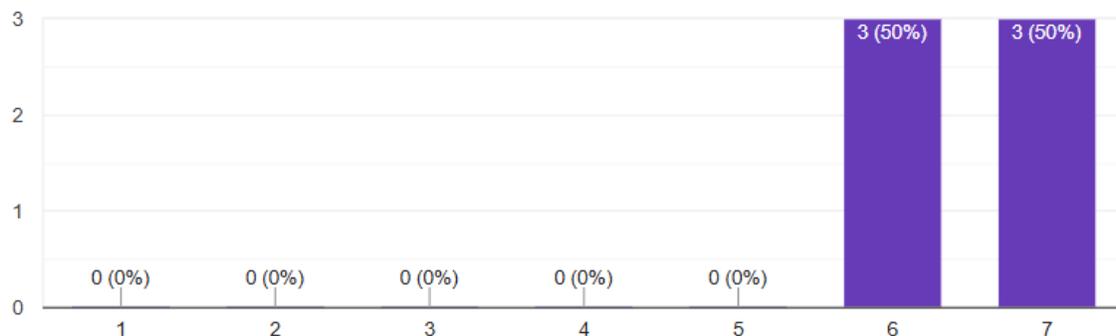
依頼先 : 就職が決まった学生8人 実施時期 : 令和7年3月

回答方法 : 無記名インターネット回答 回答者数 : 6人

(質問1)

札幌チャレンジDの就職支援活動はどの程度役に立ったと思いますか？1~7の数字でお答えください。数字が大きいほど役に立った度合いです。7:非常に役に立った 6:とても役に立った 5:やや役に立った 4:どちらでもない 3:やや役に立たなかった 2:ほとんど役に立たなかった 1:全く役に立たなかった

6件の回答



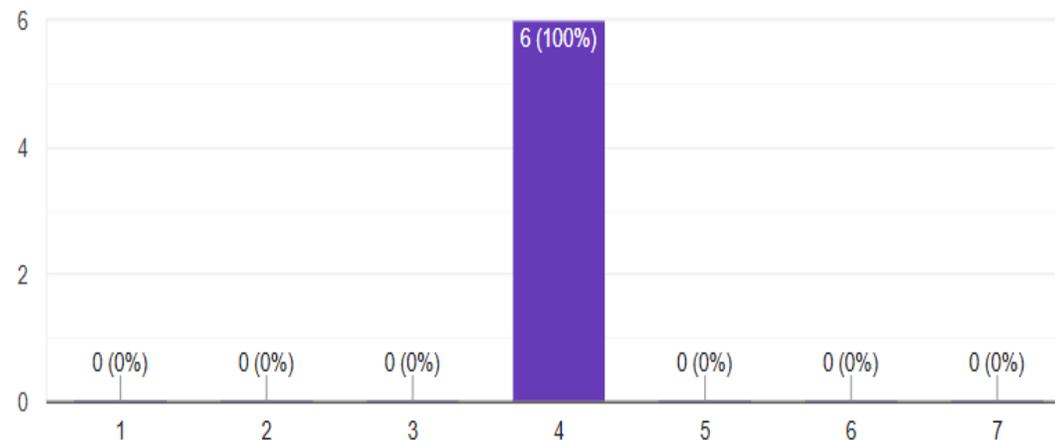
[グラフをコピー](#)

(質問2)

各プログラムの実施時間は適切でしたか？1~7の数字でお答えください。1:

短かった 4:ちょうど良かった 7:長かった

6件の回答



[グラフをコピー](#)

(考察) 6名全員が役に立った評価が高い

事業内容と結果考察

【5.アンケート調査〈学生向け〉】

(質問3)

あなたが受けたサポートの中で役に立ったと思うものを全て選んでください。

6件の回答

📄 グラフをコピー

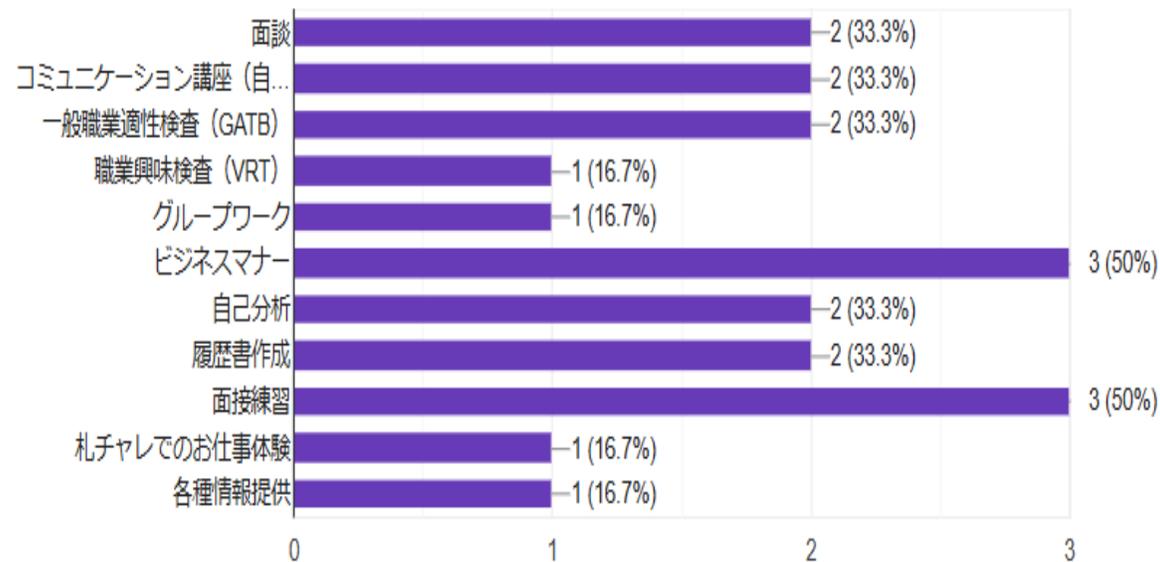


(質問4)

上記質問で選んだ中で特に役に立ったと思う項目を3つ選んでください。

6件の回答

📄 グラフをコピー



(考察) 役に立ったサポートが分散しており、人によって必要なサポート内容が違ふことと、サポートの種類が多さが有効であった。

事業内容と結果考察

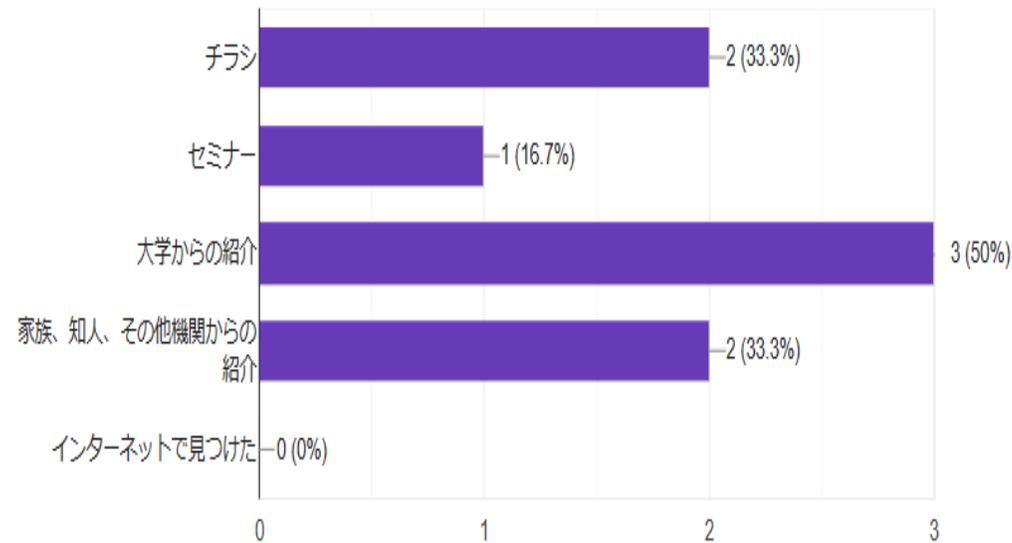
【5.アンケート調査〈学生向け〉】

(質問5)

札幌チャレンジドの就活支援のことを何で知りましたか？

6件の回答

 グラフをコピー



(考察) 大学との連携が有効である

(質問6)

あなたが就職活動を進めていく中で感じたことを自由にご記入ください。

- あまりにも知らない事が多かった。
- 意志の弱さを感じた。経験や履歴に一貫したものが無いことから思い知らされた。
- 最初は自分がどんな職業に就きたいのかすら分からなかったため不安だったが、自己分析などを通じて自分のことを少しずつ知って、今までは知らなかった自分の長所や興味・関心の方向を知ることができたので良かったです。
- 自分がどんな分野に興味を持っているか、将来像とキャリアプランなどのいろいろな方面を探索していました。
- 自分の頭の中で描いているイメージを言語化ができるようになっただけでなく、面接で必要な要素の筋が通る言葉を使って進めることができるようになったと思います。

事業内容と結果考察

【5.アンケート調査〈学生向け〉】

(質問7)

就職後に向けて、今、不安に思うことがあれば教えてください。

- 一人暮らしなど自分一人でやらなければならないことが増えること。
- 職場での人間関係、仕事に必要なスキルや知識の勉強に工夫が必要だと思う。
- 挫折経験を強みに変えたが、その後の挫折をどう切り抜けるか、対処が不安である。

(質問8)

就職活動を進めるうえで、こんなプログラムがあったら参加したい、こんなサービスが欲しいなど感じたことがありましたら、ご意見をお聞かせください。

- 社会人1年目をどうすればいいかを教えてほしいです。
- 就活同士の間情報共有の活動とか、社会人との相談とか。

事業内容と結果考察

【6.札幌圏就職困難学生支援協議会（仮称） の設立準備】

＜当初の構想＞

札幌チャレンジドが呼びかけ団体となって、協力してくれる大学と2025年6月頃をメドに「札幌圏就職困難学生支援協議会（仮称）」を設立する

＜現在の状況＞

札幌圏の大学が「地域連携プラットフォーム（仮称）」の設立準備を行っており、同プラットフォームの中の一つのプロジェクトとして取り組むことを目指して協議中。

まとめ（評価と課題）

- ▶ 本事業は、2年目の実施となり、大学と連携した広報から始まり、繋がってきた学生への丁寧な支援により、着実に成果が生まれている。
- ▶ 学生対応も軌道に乗り、各支援プログラムのノウハウも着実に蓄積できている。
- ▶ 大学向けアンケート結果からは本事業の「必要性」が、学生向けアンケート結果からは本事業の「有効性」が現れていると考える。
- ▶ 特に、就職が決まった学生のアンケート調査結果や支援している学生の「変化」を目にすると、本事業が学生の就職活動に向けての「自信」を少しずつ生み出していると考えられる。
- ▶ 4年生になってから各種支援プログラムに参加してくる学生が多く、一朝一夕では就職活動に臨む力は備わらないので、できるだけ早い時期から少しずつ訓練を行うことが必要である。その為にも、各大学との連携した広報も、1年生や2年生を対象とした説明の機会を作ることや、意識付けへの工夫が重要と考える。
- ▶ 一方で、4年生から参加した学生にとっては、卒後も継続して支援を受けられることがとても重要であり、引きこもりの防止対策としても有効な事業である。
- ▶ 次年度は、助成事業としては、最終年度との認識であり、2026年度以降も本事業を継続していくための財源確保が最大の課題である。